

西三河都市計画ごみ処理場(一般廃棄物処理施設)  
岡崎西尾地域広域ごみ処理施設整備事業に係る  
**環境影響評価準備書について**



西尾市の木「くすのき」

## 西尾市

1

# 環境影響評価の手続

# 愛知県の環境影響評価手続

計画段階環境配慮書



環境影響評価方法書



環境影響評価準備書



環境影響評価書



事業の実施

事後調査

## 【環境影響評価(環境アセスメント)とは】

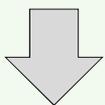
事業を実施する土地やその周囲の環境を事前に調査し、事業の実施によりどのような影響が発生するのかを予測・評価する。

その結果を公表して、地域の方々や地方公共団体などから意見を聴き、それらを踏まえてより良い事業計画を作り上げていこうという手続き。

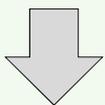
※本事業は都市計画の変更も行うことから、環境影響評価手続と併せて都市計画手続も行うこととなっています。

# 本事業の環境影響評価手続

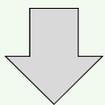
配慮書



方法書



準備書



評価書

## 配慮書 令和4年5月

計画の複数案を環境面から検討する手続

- ・ 施設配置・煙突高さの複数案
- ・ 各案の環境影響(大気質・景観)の予測評価結果

## 方法書 令和4年11月

環境影響評価項目を選定し、  
調査・予測・評価手法を検討する手続

- ・ 環境影響評価項目の選定
- ・ 環境影響評価の調査・予測・評価手法

## 準備書 今回

調査・予測・評価の結果や環境保全措置の検討結果などを取りまとめ、  
住民や知事などから意見を聞く手続



# 事業計画の概要

## 本事業の目的

国：ごみ処理の広域化を推進

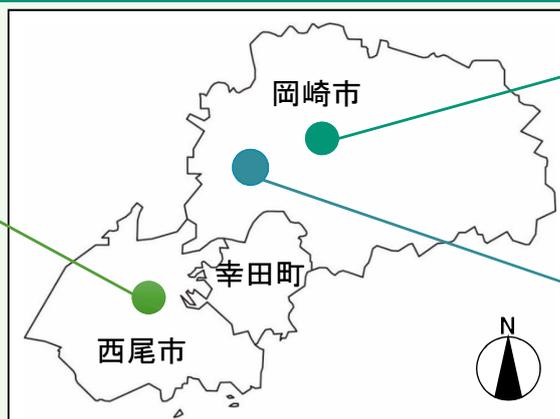
愛知県：「愛知県ごみ処理広域化・集約化計画(2021年度～2030年度)」を策定

岡崎西尾地域広域化ブロック：  
「岡崎西尾地域ごみ処理広域化計画」を策定

岡崎西尾ブロック内において既に稼働している岡崎市中央クリーンセンターとともに、新たなごみ焼却処理を担う施設として、西尾市クリーンセンター及び岡崎市八帖クリーンセンター1号炉の集約化を目指す。

### 既存施設の概要

西尾市 クリーンセンター
平成12年4月 供用開始
195t/日 (65t/日 × 3炉)

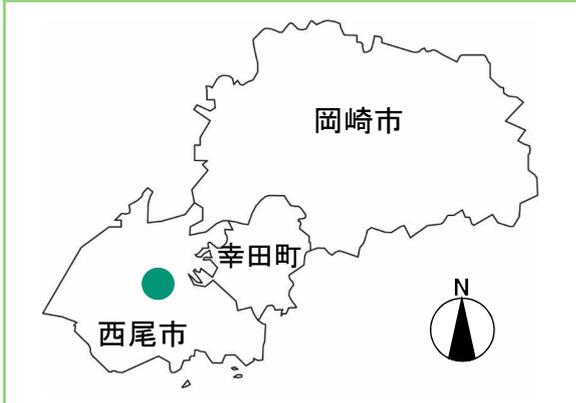


岡崎市中央 クリーンセンター
平成23年7月 供用開始
380t/日 (190t/日 × 2炉)
岡崎市八帖 クリーンセンター
平成8年2月 供用開始
100t/日

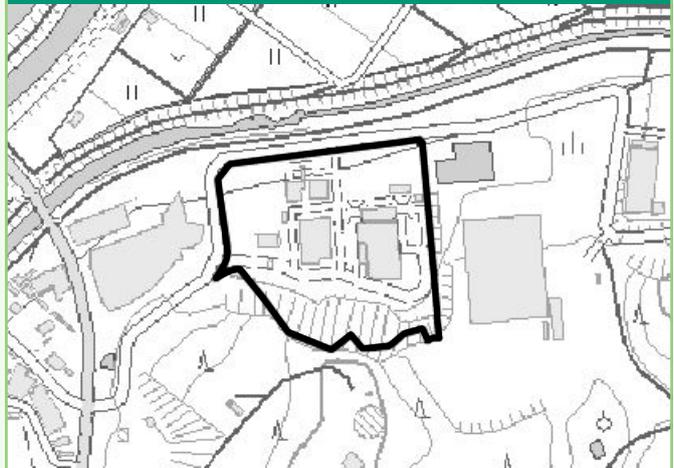
## 対象事業実施区域の位置

項目	概要
位置	西尾市吉良町岡山 大岩山地内ほか
面積	約4.5ha

### 位置図

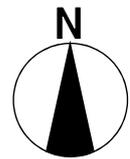


### 詳細図



#### 凡例

□ 対象事業実施区域



## 建設予定地の決定経緯

### 【建設予定地の検討条件】

- ・地域住民の利便性
- ・立地選定の諸条件
- ・岡崎市中心部クリーンセンターとの位置的バランス

### 【平成30年8月 適地選定業務を実施】

項目（法制約条件、収集運搬効率、敷地面積、周辺条件等）ごとに候補地の点数化を行い、各市町で最も点数の高かった1箇所ずつを候補地として選定

### 【令和元年5月 岡崎西尾地域広域化ブロック会議幹事会】

点数の最も高かった現西尾市クリーンセンター敷地を最有力候補地とし、関係者への調整及び合意形成を図っていくことを決定

### 【令和2年2月 岡崎西尾地域広域化ブロック会議】

建設予定地は現西尾市クリーンセンター敷地とすることを確認

# 本事業の内容

## 都市計画対象事業の種類

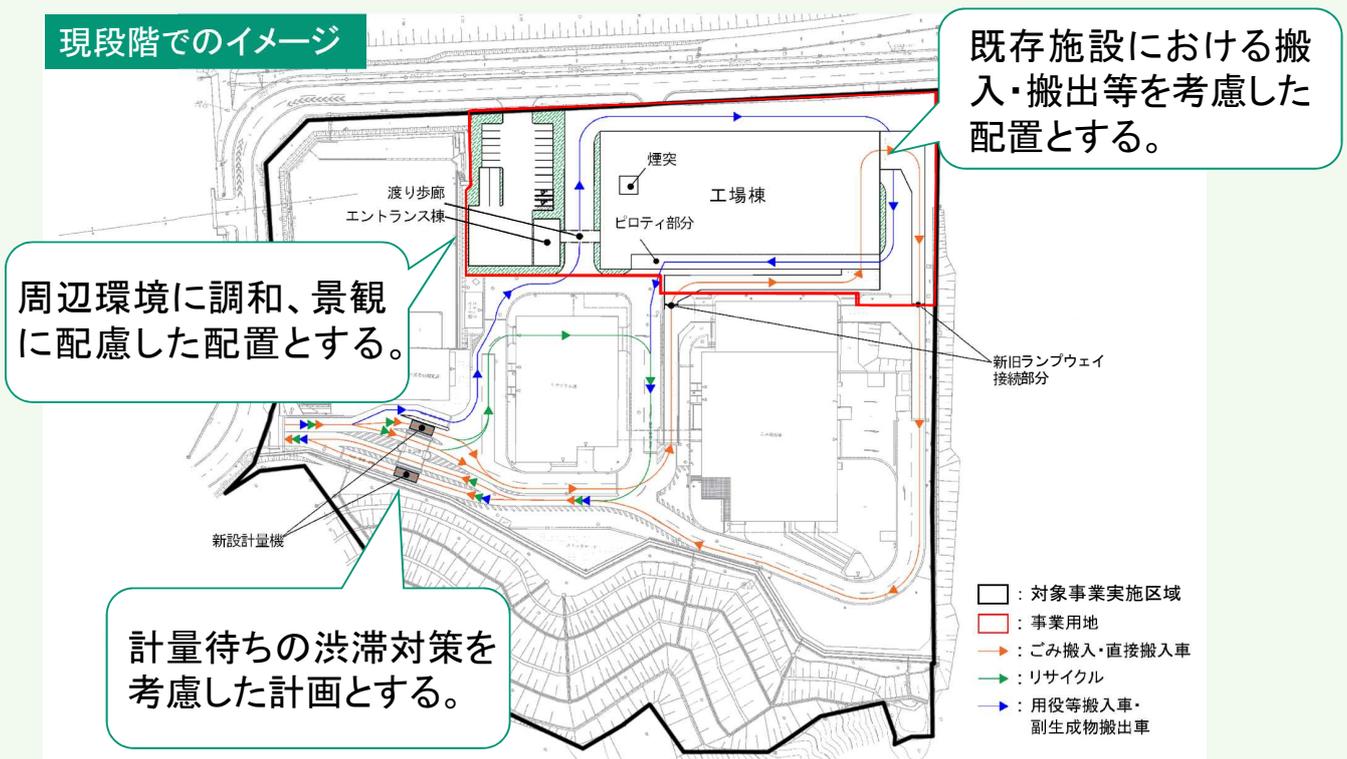
### ごみ処理施設(ごみ焼却施設)の設置事業

#### 【処理施設】

処理施設	項目	計画諸元
ごみ焼却施設	処理能力	266 t / 日 (133t/日 × 2炉)
	処理方式	未定(以下の処理方式から決定) ・ストーカ式焼却方式 ・シャフト炉式ガス化溶融方式 ・流動床式ガス化溶融方式
	処理対象ごみ	可燃ごみ、破碎選別可燃残渣、 し尿汚泥、災害廃棄物
	公害防止設備	適切な公害防止設備を備えた施設を整備する。
	煙突高さ	59m
	運転計画	24時間連続運転
稼働目標年度		令和12年度

# 施設配置計画

## 現段階でのイメージ





# 工事計画の概要

## 工事工程表(予定)

項目	年度	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)	令和12年度 (6年目)
	解体工事		→				
設計			→				
土木・建築工事			→	→	→	→	
プラント設備工事			→	→	→	→	
外構工事						→	
試運転						→	
供用							→

## 事業計画の策定時の主な環境配慮事項(1)

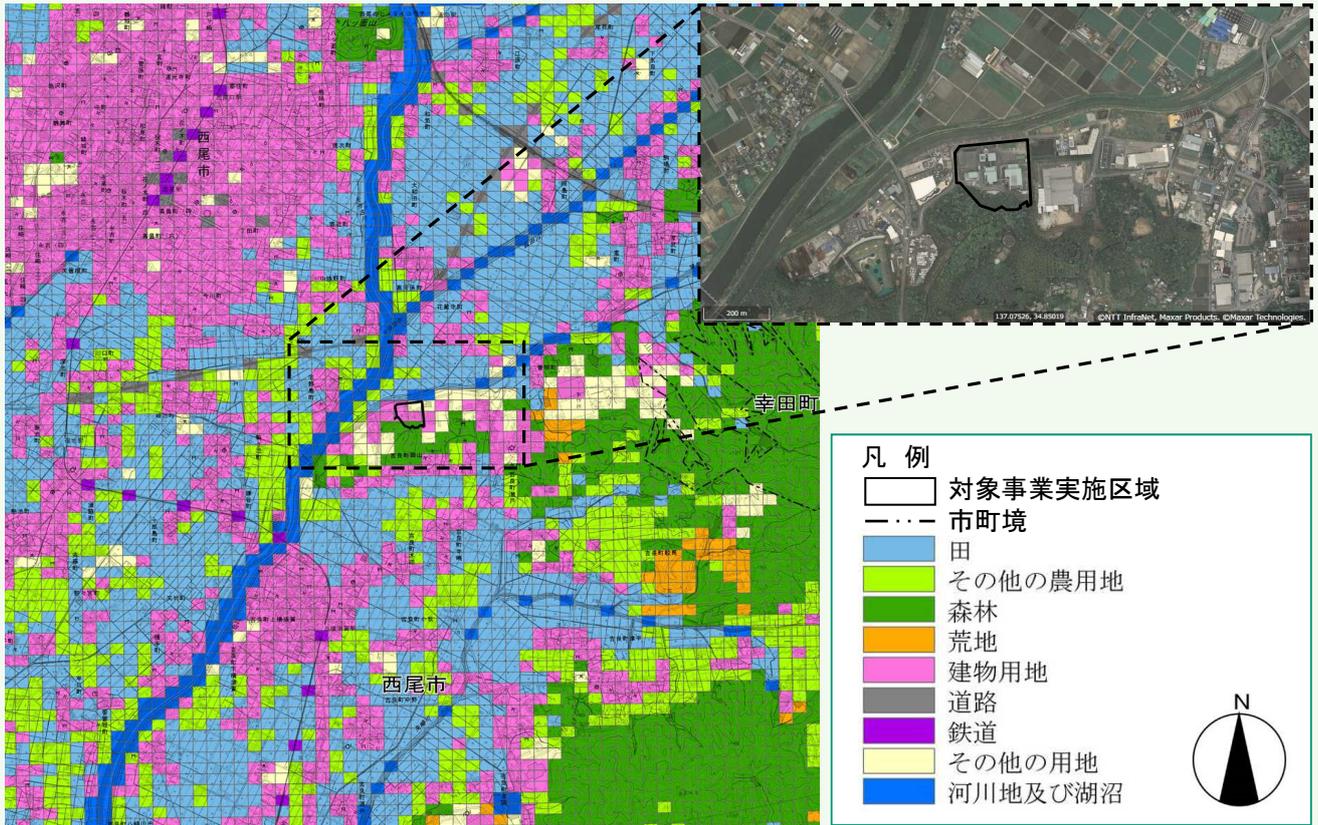
### 工事中

- 建設機械は、可能な限り排出ガス対策型、低騒音型、低振動型及び低炭素型の建設機械を積極的に使用する。
- 工事中の資材等運搬車両等については、低公害車(最新規制適合車、低燃費車両等)を可能な限り使用するよう努める。
- 適宜散水を行って粉じんの飛散を防止する。
- 雨水等の排水については、仮設沈砂池等を設け、適正に処理を行ったのち、既存の排水路に排水し、須美川へ放流する。
- 掘削にあたり、止水性が高く周辺地下水位の低下を防止する山留壁工法を採用する。
- 工事に伴って発生する廃棄物等については、種類に応じた分別を徹底し、適正に再資源化、処理及び処分を行う。
- 工事に伴う発生土は可能な限り再使用を図り、残土の発生抑制に努める。

## 供用時

- 高効率な排ガス処理設備の導入により、大気汚染物質の排出濃度の低減を図る。
- ごみピットの空気を燃焼用空気として炉内に吹き込むことで、燃焼による臭気成分の分解を行う。
- 場内で発生するプラント系排水については、排水処理を行ったのち場内で使用し、公共用水域への排水は行わない。
- ごみピットは、ごみ汚水が土壌中へ浸透・流出しない構造とする。
- 廃棄物運搬車両等は、低公害車(最新規制適合車、低燃費車両等)を可能な限り使用するよう努める。
- 施設の供用に伴って発生する廃棄物等については、種類に応じた再資源化方法を検討し、最終的な処分量の低減に努める。
- 余熱利用は場内で電力や温水等として利用するとともに、他施設への電力供給や余剰電力の売電、蒸気の供給を検討する。

## 対象事業実施区域 及びその周囲の概況



# 環境影響評価項目 の選定

# 項目選定の考え方

## 環境影響要因

- 【工事中】**
- ・ 資材等の搬入及び搬出
  - ・ 建設機械の稼働等
  - ・ 掘削・盛土等の土工  
又は既存の工作物等の除去

- 【供用時】**
- 【施設の存在】**
- ・ 地形改変並びに施設の存在
- 【施設の供用】**
- ・ ばい煙の排出
  - ・ 機械等の稼働
  - ・ 廃棄物等の搬入及び搬出
  - ・ 施設からの悪臭の漏洩

# 選定項目(1)

環境要素の区分		影響要因の区分	工事の実施				施設の存在	施設の供用			
			資材等の搬入及び搬出	建設機械の稼働等	又は既存の工作物等の除去	掘削・盛土等の土工	地形改変並びに施設の存在	ばい煙の排出	機械等の稼働	廃棄物等の搬入及び搬出	施設からの悪臭の漏洩
環境の自然的構成要素の 良好な状態の保持	大気質	硫黄酸化物					○				
		窒素酸化物	○	○			○		○		
		浮遊粒子状物質	○	○			○		○		
		粉じん等	○	○	○						
	騒音及び 超低周波音	有害物質等					○				
		建設作業等騒音		○							
		施設からの騒音							○		
		道路交通騒音	○							○	
	振動	低周波音							○		
		建設作業等振動		○							
		施設からの振動							○		
	悪臭	道路交通振動	○							○	
特定悪臭物質、臭気指数									○		
水質	水素イオン濃度				○						
	水の濁り(浮遊物質)				○						

注) 表中の「○」は選定した項目を示す。

# 選定項目(2)

影響要因の区分 環境要素の区分		工事の実施			施設の存在	施設の供用			
		資材等の搬入及び搬出	建設機械の稼働等	又は既存の工作物等の除去	掘削・盛土等の土工	地形改変並びに施設の存在	ばい煙の排出	機械等の稼働	廃棄物等の搬入及び搬出
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	地盤・土壌	土壌環境			○				
	地下水の状況及び地下水質	地下水の状況 地下水質			○ ○				
		日照阻害			○				
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	動物	重要な種及び注目すべき生息地	○	○	○				
	植物	重要な種及び群落		○	○				
	生態系	地域を特徴付ける生態系	○	○	○				
人と自然との豊かな触れ合いの確保及び地域の歴史的・文化的特性を生かした快適な環境の創造	景観	景観資源及び主要な眺望点並びに主要な眺望景観			○				
	人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	○					○	
環境への負荷の量の程度	廃棄物等	廃棄物 残土その他の副産物			○		○	○	
	温室効果ガス等	温室効果ガス等	○	○		○	○	○	

注)表中の「○」は選定した項目を示す。

# 調査・予測及び 評価の結果

# 調査・予測について

## 【現地調査項目】

大気質

騒音  
振動  
低周波音

悪臭

水質

地盤・土壌

地下水  
地下水質動物・植物・  
生態系

景観

人と自然との  
触れ合いの  
活動の場

## 【予測のみ行った項目】

日照障害

廃棄物等

温室効果ガス  
等

# 大気質 調査結果



- 対象事業実施区域
- 環境大気質、地上気象、  
上層気象調査地点
- 環境大気質調査地点
- ◆ 道路沿道大気質、  
交通量等調査地点
- ↔ 主要走行経路

## 調査結果

すべての地点、  
項目で環境基準等  
を達成していた。

# 「環境基準」とは

人の健康の保護や生活環境の保全の上で  
維持されることが望ましい基準

健康等を維持するための最低限度としてではなく、積極的に維持されることが望ましい目標として、その確保を図っていく行政上の目標(※大気質であれば、ずっとこの空気を吸っていても健康上の問題はないという値)である。

現在得られる限りの科学的知見を基礎としており、環境基本法、ダイオキシン類対策特別措置法などで定められている。

→環境影響評価では、現況や予測結果を  
評価する際の指標として使用



# 大気質 予測結果

工事の実施 資材等の搬入及び搬出

NO <sub>2</sub>	二酸化窒素 (ppm)
SPM	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )

項目	予測結果	環境基準
NO <sub>2</sub>	0.021	0.06以下
SPM	0.033	0.10以下

項目	予測結果	環境基準
NO <sub>2</sub>	0.020	0.06以下
SPM	0.033	0.10以下

項目	予測結果	環境基準
NO <sub>2</sub>	0.021	0.06以下
SPM	0.033	0.10以下

項目	予測結果	環境基準
NO <sub>2</sub>	0.020	0.06以下
SPM	0.033	0.10以下



## 予測結果

すべての地点で  
環境基準を満足する。

# 大気質 予測結果

工事の実施 建設機械の稼働等、掘削・盛土等の土工又は既存の工作物等の除去

大気質の予測結果(建設機械の稼働等)

予測地点	項目	付加濃度	現況濃度	予測結果		環境基準
				年平均値	日平均値	
最大着地濃度地点	二酸化窒素 (ppm)	0.0036	0.008	0.0116	0.027	日平均値が0.04~0.06のゾーン内又はそれ以下
	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0013	0.012	0.0133	0.030	日平均値が0.10以下

## 予測結果

- 二酸化窒素、浮遊粒子状物質はいずれも環境基準を満足する。
- 粉じんが飛散すると考えられる気象条件(風速5.5m/秒)の年間出現頻度(時間数)は7.0%、年間出現頻度(日数)16.7%であり、粉じんが飛散すると考えられる場合には散水を行う。  
→環境への影響の程度は小さいと予測する。

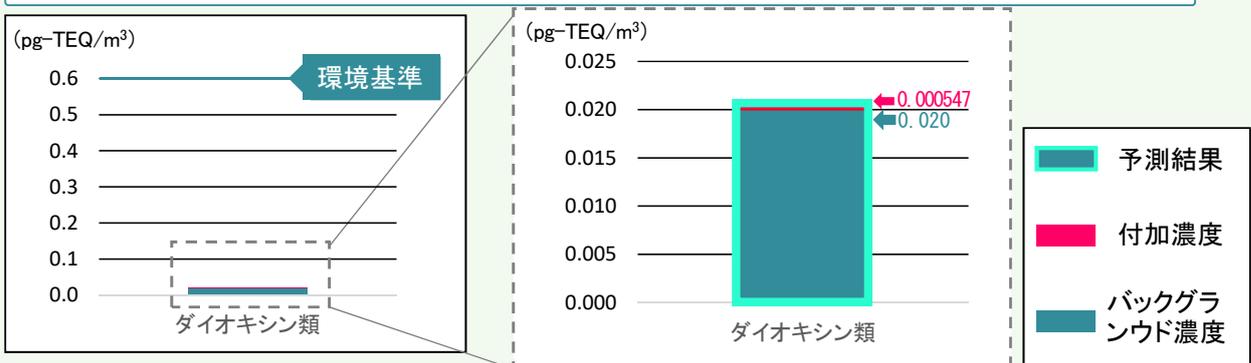
# 大気質 予測結果

施設の供用 ばい煙の排出 (年平均値)

予測地点	項目	予測結果		環境基準等
		年平均値	日平均値	
最大着地濃度地点	二酸化硫黄 (ppm)	0.001273	0.003	日平均値が0.04以下
	二酸化窒素 (ppm)	0.010180	0.025	日平均値が0.04~0.06のゾーン内又はそれ以下
	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.022055	0.054	日平均値が0.10以下
	水銀 (μg/m <sup>3</sup> )	0.004273	—	年平均値が0.04以下
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.020547	—	年平均値が0.6以下

## 予測結果

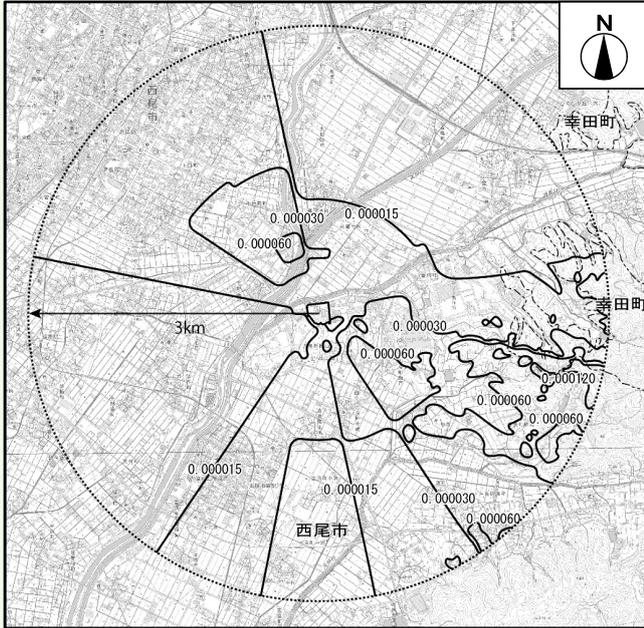
すべての項目で環境基準を満足する。



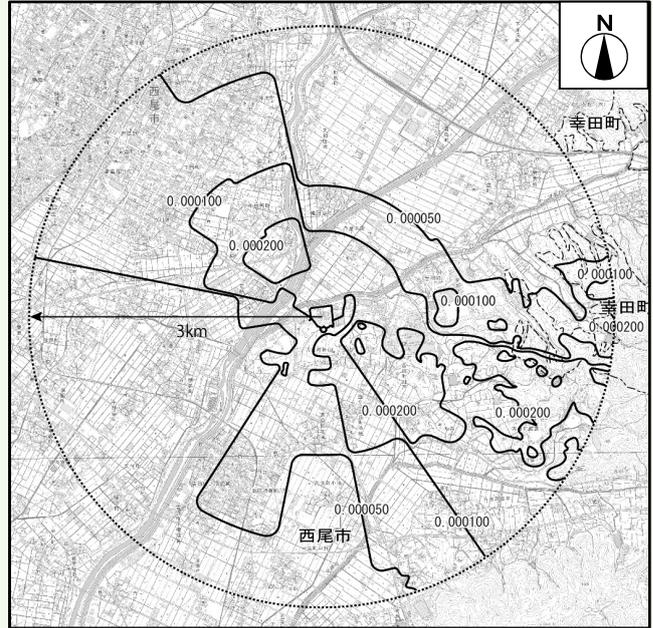
# 大気質 予測結果

施設の供用 ばい煙の排出（年平均値）

大気質予測結果（煙突排出ガス）  
（二酸化窒素：年平均値）



大気質予測結果（煙突排出ガス）  
（ダイオキシン類：年平均値）

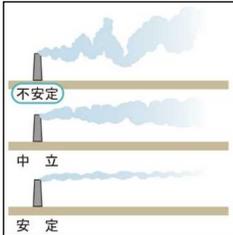


# 大気質 予測結果

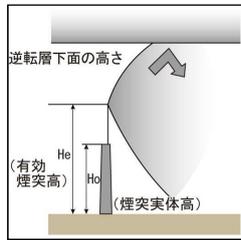
施設の供用 ばい煙の排出（1時間値）

## 特殊な気象条件

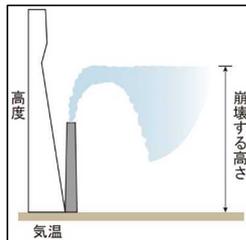
大気安定度不安定時



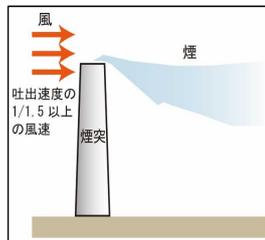
上層逆転時



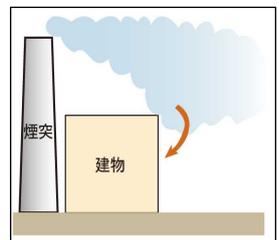
接地逆転層崩壊時



ダウンウォッシュ時



ダウンドラフト時



上記ケースのうちの最大

予測地点	項目	付加濃度	予測結果 (1時間値)	環境基準等
接地逆転層崩壊時 (最大着地濃度地点)	二酸化硫黄 (ppm)	0.0080	0.0180	0.1以下
	二酸化窒素 (ppm)	0.0134	0.0604	0.1~0.2以下
	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0016	0.0856	0.20以下
	塩化水素 (ppm)	0.0080	0.0100	0.02以下

## 予測結果

すべての項目で環境基準等を満足する。

# 大気質 予測結果

## 施設の供用 廃棄物等の搬入及び搬出

NO <sub>2</sub>	二酸化窒素 (ppm)
SPM	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )

項目	予測結果	環境基準
NO <sub>2</sub>	0.021	0.06以下
SPM	0.033	0.10以下

項目	予測結果	環境基準
NO <sub>2</sub>	0.020	0.06以下
SPM	0.033	0.10以下

項目	予測結果	環境基準
NO <sub>2</sub>	0.021	0.06以下
SPM	0.033	0.10以下

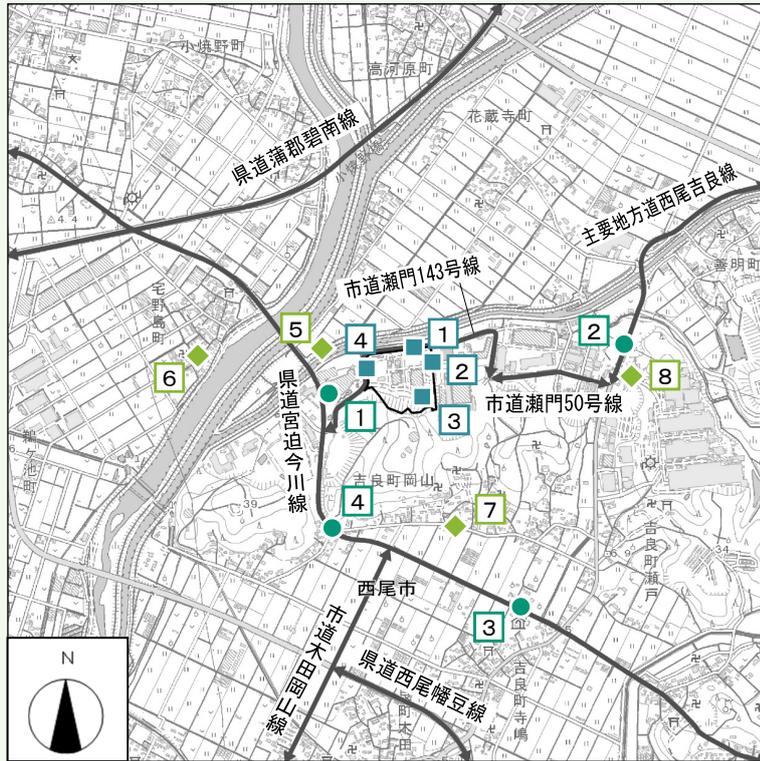
項目	予測結果	環境基準
NO <sub>2</sub>	0.020	0.06以下
SPM	0.033	0.10以下



**予測結果**  
すべての地点で環境基準を満足する。

# 大気質 環境保全措置

影響要因	主な環境保全措置
工事の実施	資材等の搬入時期・時間帯及び搬入ルート分散化を図り、車両の集中を避ける。
	積載量に応じた適正な車種の選定による運搬の効率化を推進することにより、さらに資材等運搬車両等の走行台数を減らすよう努める。
	建設機械の整備、点検を徹底する。
	工事規模に合わせた建設機械の設定を行い、排出ガスの排出の抑制に努める。
施設の供用	ごみ質の均一化を図り適正負荷による安定した燃焼を維持することで大気汚染物質の低減に努める。
	設備機器類は、定期点検を実施し、常に正常な運転を行うように維持管理を徹底する。
	朝・夕の交通量増加時には、廃棄物運搬車両等の台数を抑えるよう努める。
	委託業者と収集運搬許可業者が低公害車の導入を促進するよう要請を行う。



- 対象対象事業実施区
- 環境騒音・振動、  
低周波音調査地点
- ◆ 環境騒音・振動調査地点
- 道路交通騒音・振動、  
交通量等調査地点

### 調査結果

#### 環境騒音・振動

地点3及び地点5の夜間を除き、環境基準等を満足していた。

#### 道路交通騒音・振動

すべての地点で環境基準等を満足していた。

#### 低周波音

すべての地点で心身に係る苦情に関する参照値以下であった。

## 「デシベル(dB)」とは

### デシベル(dB)

騒音や振動の大きさの単位で、物理的なエネルギーの大きさを、人の感覚に合わせて補正したもの。



#### 騒音レベルの目安 [デシベル]

騒音レベル	大きさの目安
120	飛行機のエンジンの近く
100	電車通過時のガード下
80	パチンコ店内
60	普通の会話
50	静かな事務所の中
40	図書館の中
20	木の葉の触れ合う音
0	人が聞くことができる最小の音

➡人が音の大きさの違いが分かるのは約3デシベルといわれている。

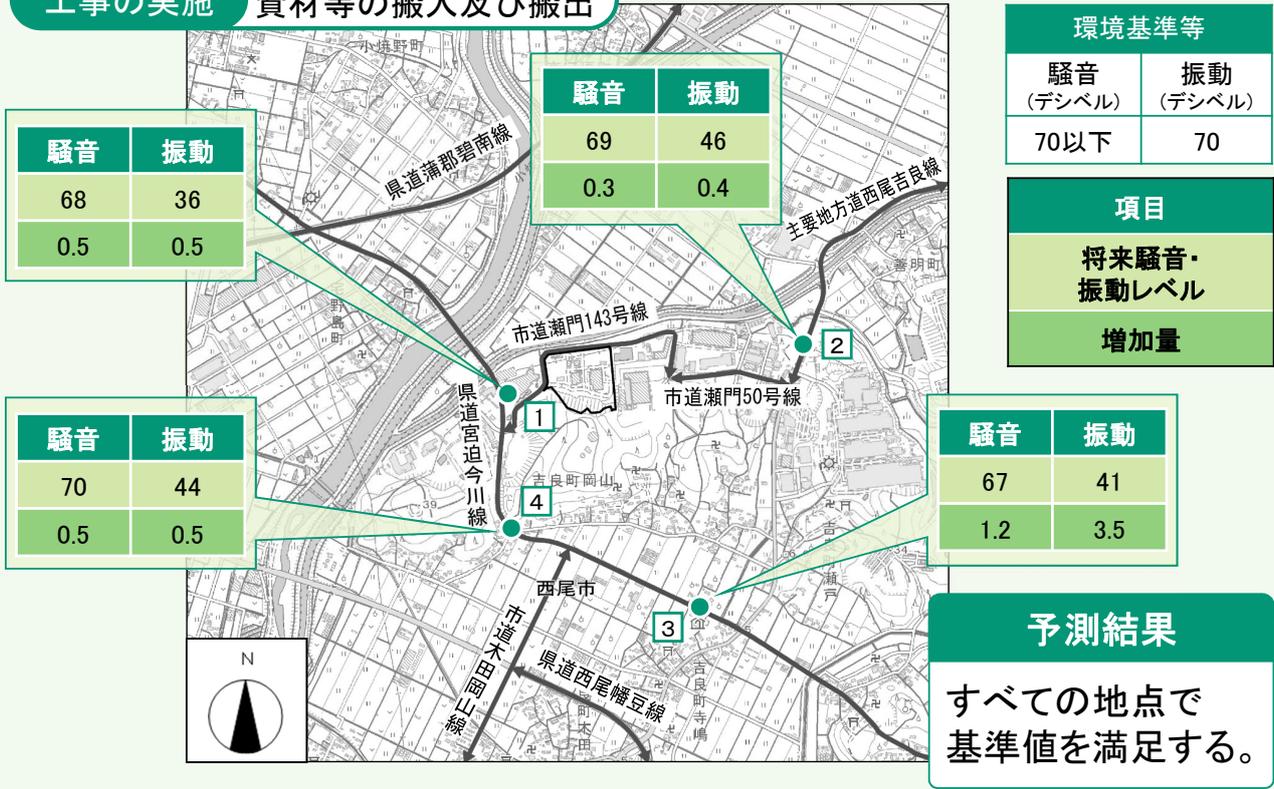
#### 振動レベルの目安 [デシベル]

振動レベル	震度	大きさの目安
90	4	眠っている人が目を覚ます。
80	3	室内にいる人のほとんどが揺れを感じる。
70	2	室内にいる人の多くが揺れを感じる。
60	1	室内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。
50	0	人は揺れを感じない。

➡人が揺れを感じ始めるのは55デシベル(振動感覚閾値)といわれている。

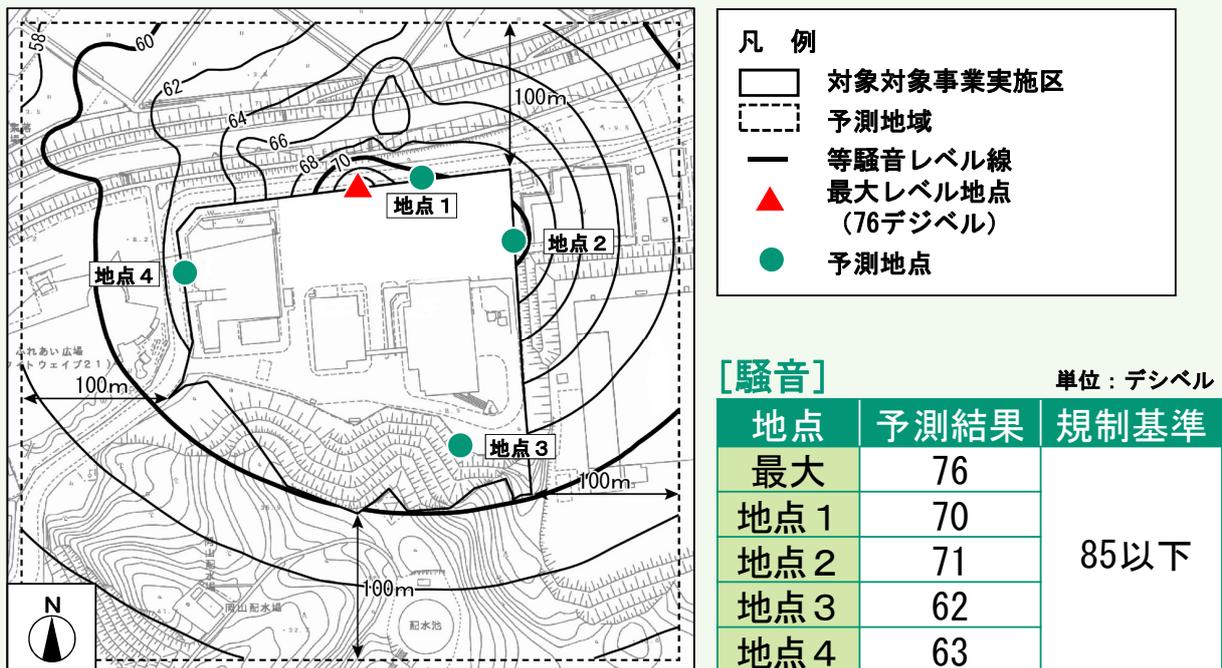
# 騒音・振動 予測結果

工事の実施 資材等の搬入及び搬出



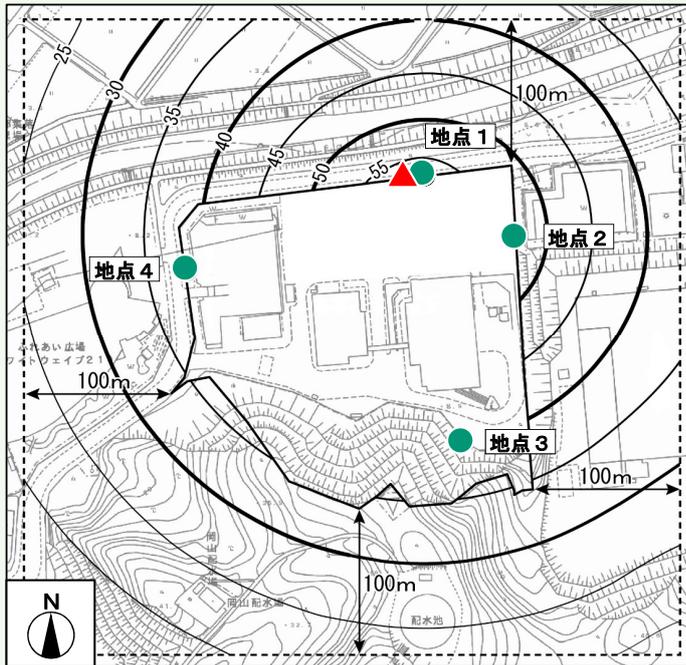
# 騒音 予測結果

工事の実施 建設機械の稼働等



# 振動 予測結果

工事の実施 建設機械の稼働等



凡例

- 対象対象事業実施区
- 予測地域
- 等振動レベル線
- ▲ 最大レベル地点 (58デジベル)
- 予測地点

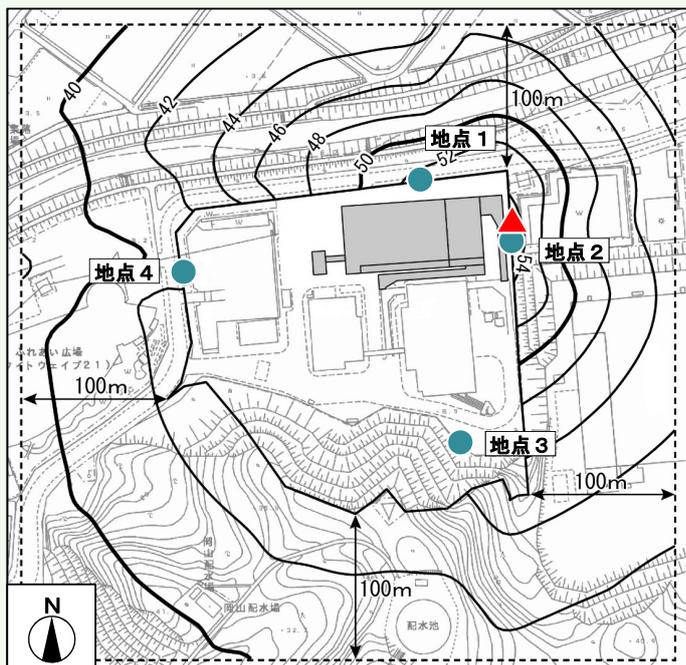
[振動]

単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準
最大	58	75以下
地点1	58	
地点2	55	
地点3	40	
地点4	38	

# 騒音 予測結果

施設の供用 機械等の稼働：昼間



凡例

- 対象対象事業実施区
- 予測地域
- 等騒音レベル線
- ▲ 最大レベル地点 (56デジベル)
- 予測地点

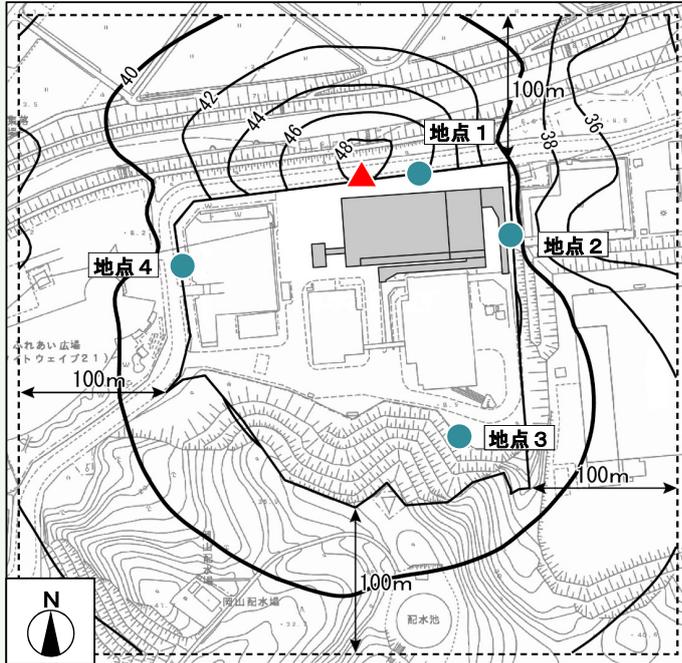
[騒音]

単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準
最大	56	60
地点1	53	
地点2	56	
地点3	45	
地点4	41	

# 騒音 予測結果

施設の供用 機械等の稼働：朝、夕、夜間



凡例

- 対象対象事業実施区
- 予測地域
- 等騒音レベル線
- ▲ 最大レベル地点  
(48デジベル)
- 予測地点

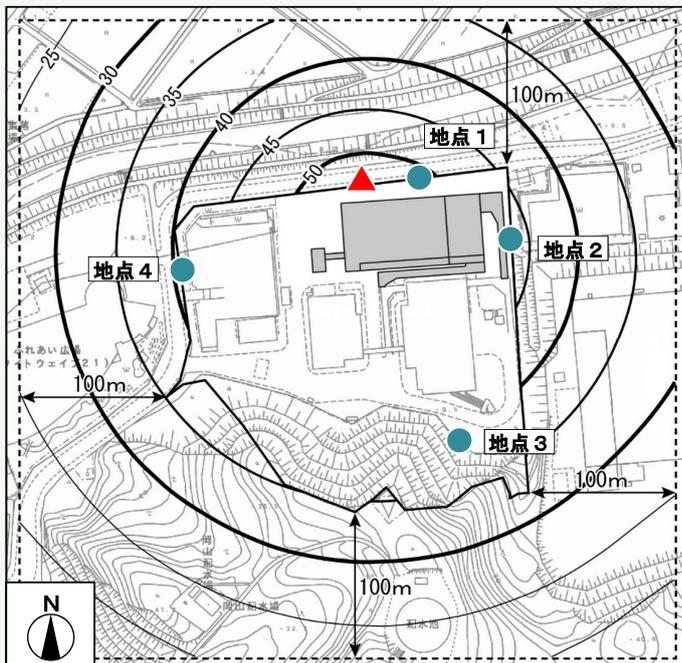
[騒音]

単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準
最大	48	朝・夕：55 夜間：50
地点1	46	
地点2	42	
地点3	42	
地点4	40	

# 振動 予測結果

施設の供用 機械等の稼働：昼間



凡例

- 対象対象事業実施区
- 予測地域
- 等振動レベル線
- ▲ 最大レベル地点  
(56デジベル)
- 予測地点

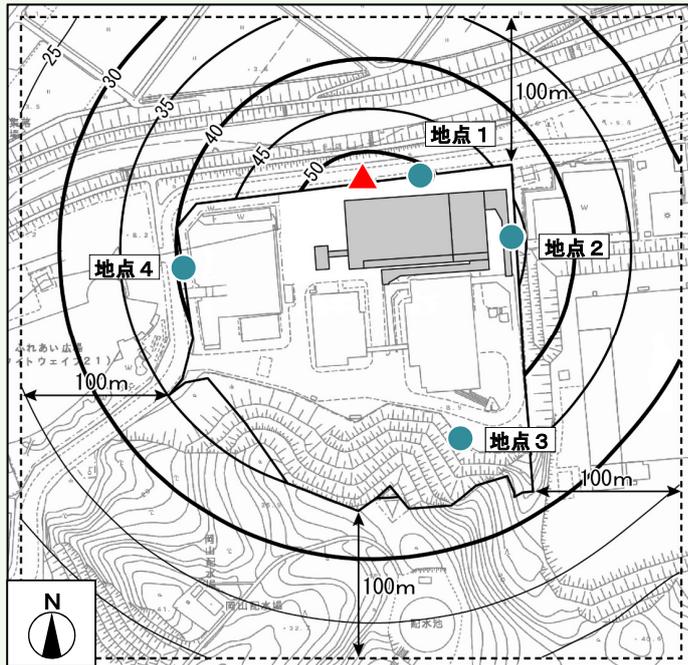
[振動]

単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準
最大	56	65
地点1	52	
地点2	48	
地点3	39	
地点4	40	

# 振動 予測結果

施設の供用 機械等の稼働：夜間



凡例

- 対象対象事業実施区
- 予測地域
- 等振動レベル線
- ▲ 最大レベル地点  
(55デシベル)
- 予測地点

[振動]

単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準
最大	55	60
地点1	52	
地点2	47	
地点3	38	
地点4	40	

# 低周波音 予測結果

施設の供用 機械等の稼働

類似施設における低周波音の調査結果は、いずれの施設もすべての地点で心身に係る苦情に関する参照値(G特性92デシベル)を下回っている。

類似施設の低周波音調査結果

類似施設	処理能力	施設から調査地点の距離(m)	調査結果(デシベル)	参照値(デシベル)
①ストーカ式	405t/日	5～15	75～80	92
②シャフト炉式 ガス化溶融炉	380t/日	11～23	69～83	
③流動床式	315t/日	5～50	72～79	

- 壁面からの二次的な低周波音が発生しないよう配慮し、低周波音の発生を防止する計画である。
- 類似施設よりも処理能力が小さい。

予測結果

計画施設においても影響は小さい。

# 騒音・振動 予測結果

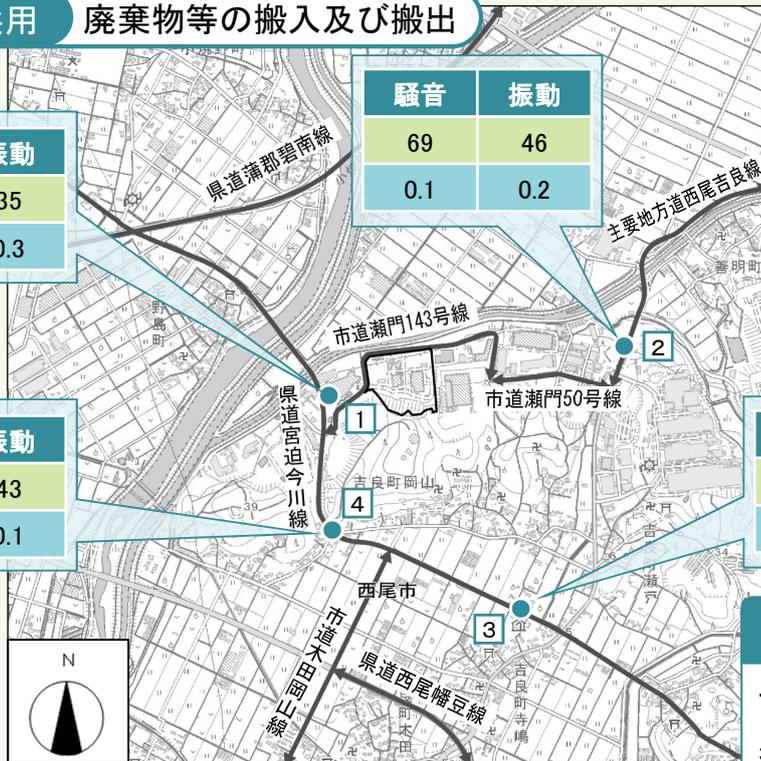
施設の供用 廃棄物等の搬入及び搬出

騒音	振動
67	35
0.2	0.3

騒音	振動
69	46
0.1	0.2

騒音	振動
69	43
0.1未満	0.1

騒音	振動
66	38
0.1未満	0.1



環境基準等

騒音 (デシベル)	振動 (デシベル)
70以下	70

項目

将来騒音・  
振動レベル

増加量

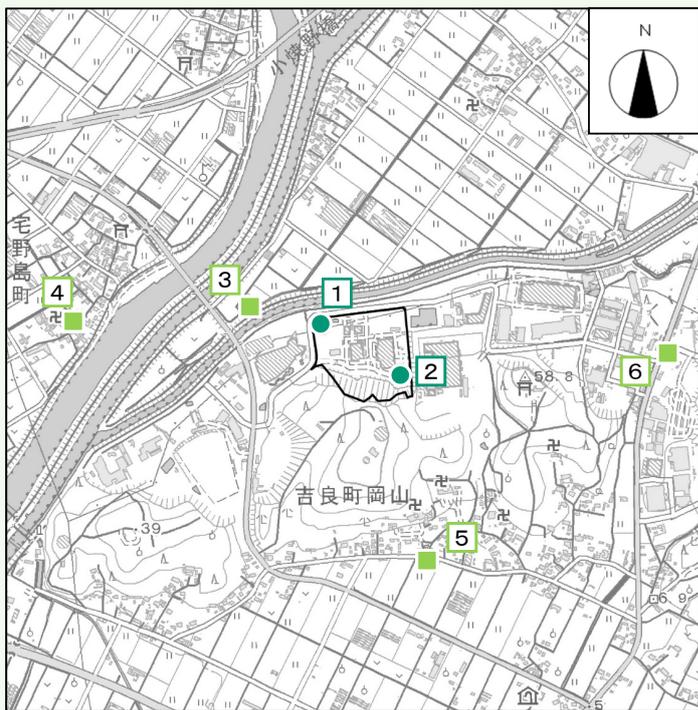
予測結果

すべての地点で  
基準値を満足する。

# 騒音・振動、低周波音 環境保全措置

影響要因	主な環境保全措置
工事の実施	積載量に応じた適正な車種の選定による運搬の効率化を推進することにより、さらに資材等運搬車両等の走行台数を減らすよう努める。
	資材等運搬車両等のエコドライブを徹底する。
	仮囲いの通用門は、通行時以外は閉じておく。
	建設機械の整備、点検を徹底する。
施設の供用	騒音発生源は極力敷地境界から離れた位置に配置する。
	振動を発生する設備機器類の床は、床板を厚くするなど、構造強度を確保する。
	設備機器類は、定期点検を実施し、常に正常な運転を行うように維持管理を徹底する。
	朝・夕の交通量増加時には、廃棄物運搬車両等の台数を抑えるよう努める。

# 悪臭 調査結果



- 対象事業実施区域
- 悪臭調査地点 (特定悪臭物質、臭気指数)
- 悪臭調査地点 (臭気指数)

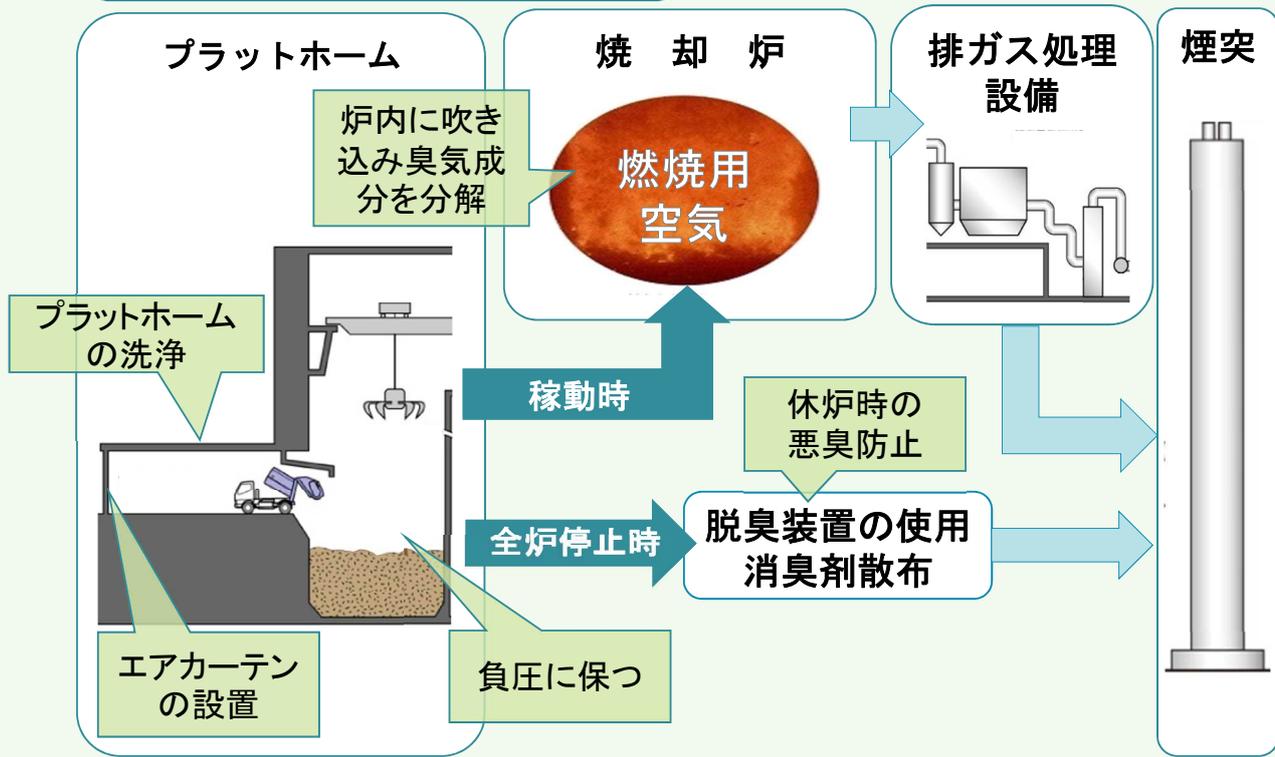
**調査結果**

いずれの地点も特定悪臭物質はすべての項目で参考とした規制基準値未満※、臭気指数は10未満であった。

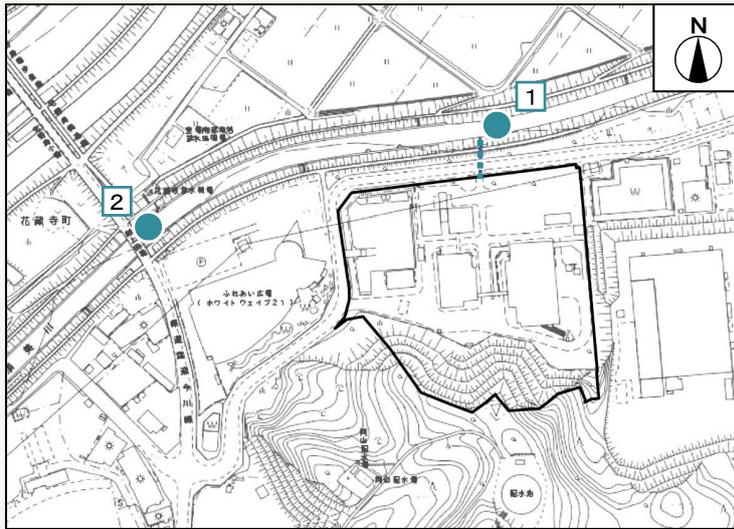
※西尾市は、悪臭防止法に基づく規制の対象外であるが、参考として第3種地域の規制基準と比較した。

# 悪臭 予測結果・環境保全措置等

施設の供用 施設からの悪臭の漏洩



# 水質 調査結果



□ 対象事業実施区域

● 水質調査地点

⋯⋯ 排水ルート



水質調査地点

## 調査結果

須美川には環境基準は適用されないものの、参考として環境基準（B類型）と比較すると、水素イオン濃度及び浮遊物質量は環境基準に適合していた。

# 水質 予測結果

工事の実施

掘削・盛土等の土工又は既存の工作物等の除去

## 予測結果

水素イオン濃度  
水の濁り

工事による排水は、仮設沈砂池等を設け、適正に処理を行ったのちに既存の排水路に放流することから、河川水質の変化は小さい。



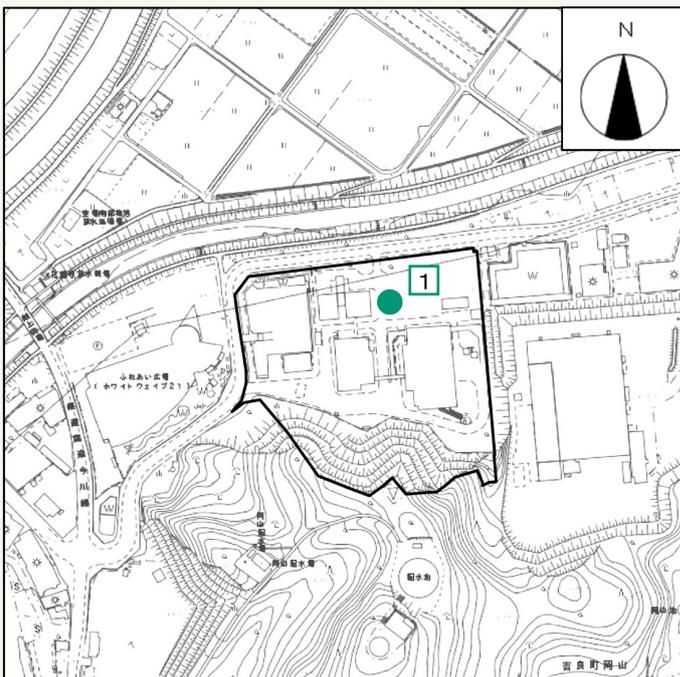
# 水質 環境保全措置

影響要因	環境保全措置
工事の実施	台風、集中豪雨等が予想される場合には土工事は行わない。
	必要に応じて造成面へのシート、土嚢による養生等を行う。
	堆砂容量を確保するために、必要に応じて仮設沈砂池の堆砂を除去するなど維持管理に努め、適切に濁水対策を実施する。

## (参考) 施設の供用時における排水

- 場内で発生するプラント排水は、排水処理を行ったのち場内で使用し、公共用水域への排水は行わない。
- 生活排水は処理を行ったのち、既存の水路等を通じて須美川へ放流する。
- 雨水は調整池に一旦貯留したのち、既存の水路等を通じて須美川へ放流する。

# 土壌及び地下水質 調査結果



□ 対象事業実施区域

● 土壌、地下水質  
環境調査地点

## 調査結果

土壌、地下水質ともに環境基準項目及びダイオキシン類、すべての項目において環境基準値に適合していた。

# 土壌 予測結果

工事の実施 掘削・盛土等の土工又は既存の工作物等の除去

## 予測結果

- 調査結果において、土壌の汚染に係る環境基準項目及びダイオキシン類について環境基準に適合していた。
- 工事着手前に土壌汚染対策法及び県民の生活環境の保全等に関する条例に基づく調査を行い、土壌汚染が判明した場合には適切に対応する。
- 自主的に実施した土壌汚染等調査では、カドミウム及びその化合物の溶出量基準超過が確認されているものの、アスファルト舗装等で覆われており、汚染土壌の飛散や雨水等による拡散のおそれはない。今後、当該地の土壌の掘削除去等を実施する予定である。

→掘削等の土工による土壌汚染の拡散はないと予測する。

# 地下水の状況・地下水質 予測結果

工事の実施 掘削・盛土等の土工

## 地下水位の低下

- 掘削については止水性が高く、周辺地下水位の低下を防止する山留壁工法を採用する。  
→掘削による地下水位の低下は小さいと予測する。

## 地下水質の汚染

- 現地調査結果から、地下水汚染及び土壌汚染は確認されていない。工事着手前に土壌汚染対策法等に基づく調査を行い、土壌汚染が判明した場合には適切に対応する。  
→掘削による地下水汚染の拡散はないと予測する。

施設の存在 地形改変並びに施設の存在

## 地下水の状況・地下水質

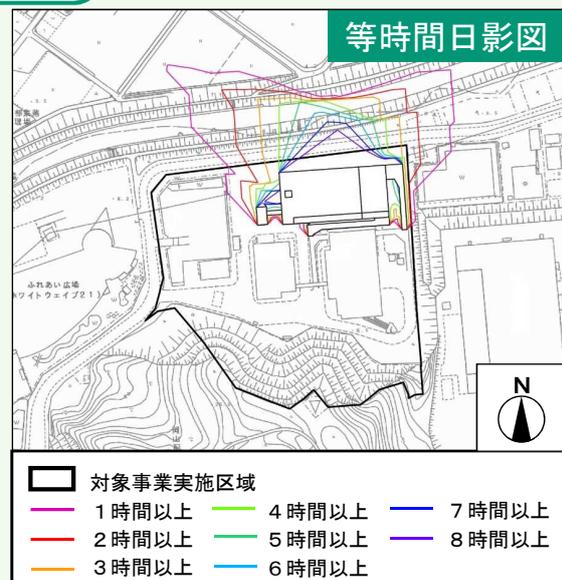
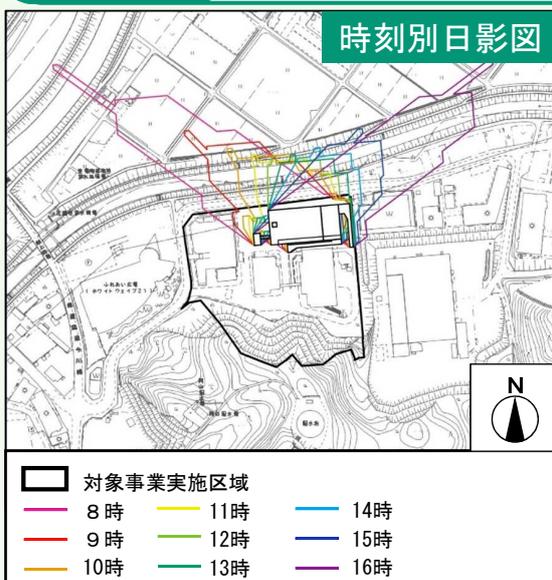
- ごみピットは点構造物であり、地下水はごみピットを回り込んで移動する。  
→施設の存在に伴う地下水位の低下は小さいと予測する。

影響要因	環境保全措置
工事の実施 (土壌)	発生土を対象事業実施区域外に搬出する場合は、受け入れ先の受け入れ基準との適合を確認する。
工事の実施 (地下水の状況・地下水質)	地下水位の定期的なモニタリングを実施し、地下水位の状況を把握する。
	採用する山留壁工法の適正な施工に努める。
施設の存在 (地下水の状況・地下水質)	可能な限りごみピットなどの地下構造物を小さくするよう努める。



## 日照障害 予測結果

予測結果 地形改変並びに施設の存在

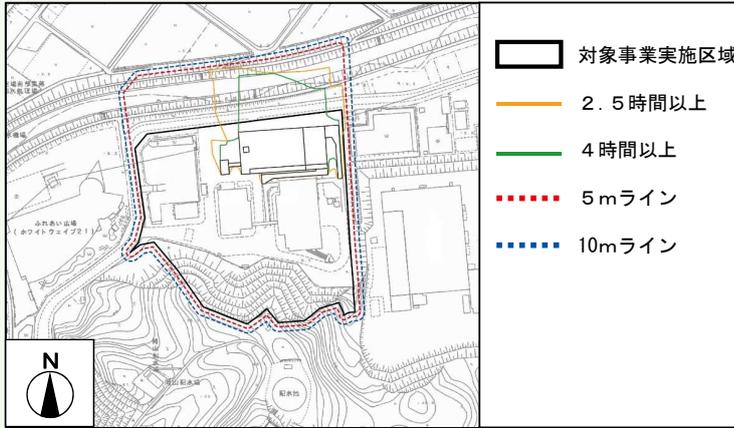


### 予測結果

煙突の影の位置は時刻とともに移動し、一部、住居等に影がかかる時間がみられるが、1時間以上の影となる範囲は建物周辺になり住居等は存在しない。

# 日照障害 予測結果、環境保全措置

## 予測結果 地形改変並びに施設の存在



**予測結果**  
日影規制を満足している。

## 環境保全措置

影響要因	環境保全措置
施設の存在	建築物を可能な限り小さくする。
	建築物は、可能な限り敷地境界からの距離を設ける。

# 動物・植物・生態系 調査結果

## 確認された重要な種

項目	重要な種
哺乳類	0種
鳥類	16種
昆虫類	10種
両生類	1種
爬虫類	1種
魚類	0種
底生動物	0種
クモ類	3種
陸産貝類	5種
植物	1種



オオタカ



ケリ



トノサマガエル



ヒメタイコウチ



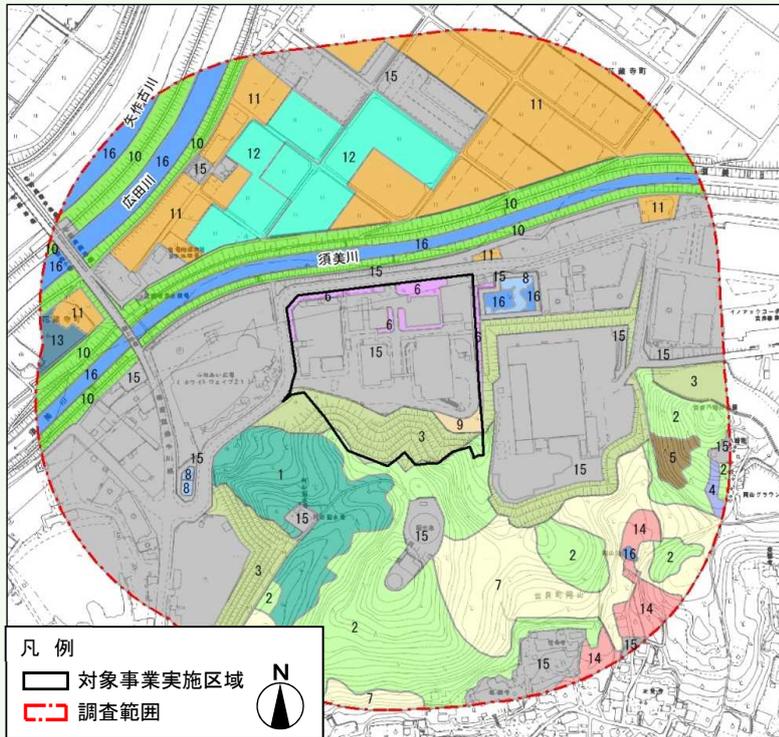
ビロウドマイマイ



ニホンイシガメ

工事の実施

施設の存在



予測結果

- 対象事業実施区域を利用している種はいるものの、生息・生育環境は改変されない又は同様の環境は対象事業実施区域周辺に分布している。
- 生息環境への移動は妨げられる可能性は低い。
- 環境配慮事項を講じる。

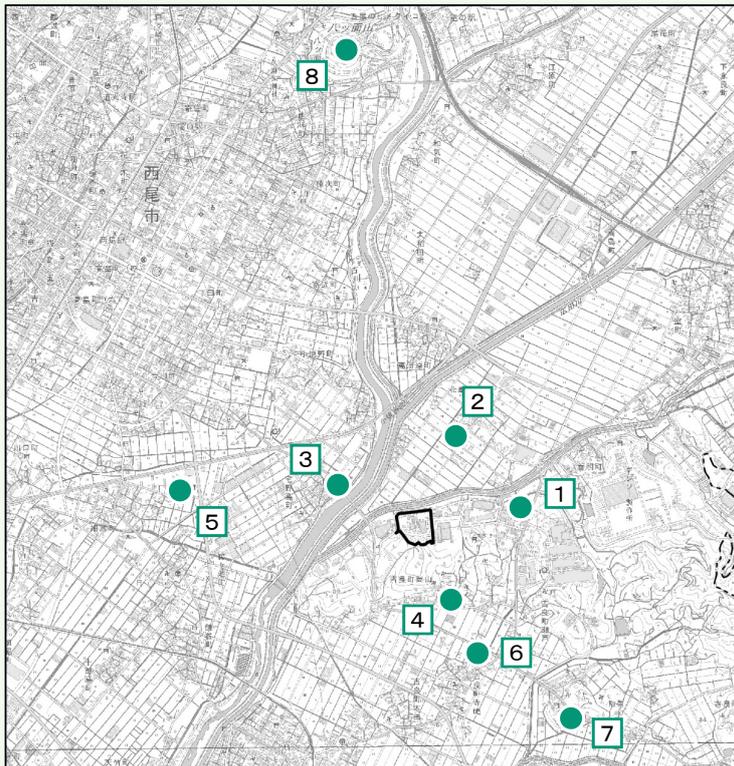
→ 影響は極めて小さいと予測する。

凡例

1	コナラ群落	9	アゼスゲ群落
2	シイ・カシ二次林	10	クズ群落
3	アベマキ群落	11	畑雑草群落
4	ケヤキ群落	12	水田雑草群落
5	スギ・ヒノキ植林	13	放棄水田雑草群落
6	クスノキ植林	14	果樹園
7	竹林	15	造成地
8	高茎草本群落	16	開放水域

影響要因	主な環境保全措置
工事の実施	工事関係者に対し定期的に地域の自然環境や周辺環境への配慮事項について講習・指導を行う。
	コンクリート工事による排水は、必要に応じて中和処理等を行う。 現地調査において確認されたヒメタイコウチについて、生息環境の保護に努める。
施設の存在	植栽樹木の選定にあたっては、鳥類や昆虫類等の餌となる実をつけたり、樹液を出すような在来種(郷土種)を採用する。
	施設では不要な照明の早期消灯、昆虫類の誘因性が低いとされるナトリウム灯・LED等の設置等の対策により、夜行性動物類の活動や生態系の攪乱防止に努める。
	本事業の緑地における植栽樹種等には、対象事業実施区域周辺の構成樹種や在来種等を可能な限り利用する。 可能な範囲で駐車場等の緑化等、緑化率の向上に努める。

# 景観 調査・予測地点



## 調査地点

地点1 黄金堤

地点2 慶昌寺

地点3 宅野島橋歩道橋

地点4 岡山集落センター

地点5 神明社

地点6 特別養護老人ホーム  
レジデンス寺嶋

地点7 東条城跡

地点8 ハツ面山

□ 対象事業実施区域  
● 景観調査地点



# 景観 予測結果

予測結果

地形改変並びに施設の存在

地点3 宅野島橋歩道橋

供用時



※計画施設の色彩や形状等については現時点でのイメージです。

将来は、現施設の手前に計画施設の建屋及び煙突が出現する。煙突の高さは現施設よりも低くなるものの、建屋は大きく見えることから、**景観の変化が生じるものと予測する。**

# 景観 予測結果

予測結果

地形改変並びに施設の存在

地点4 岡山集落センター



計画施設は視認されないことから、景観の変化は見られないものと予測する。

# 景観 予測結果

予測結果

地形改変並びに施設の存在

地点5 神明社



※計画施設の色彩や形状等については現時点でのイメージです。

将来は、樹木越しに計画施設の建屋及び煙突が出現するものの、景観構成要素は大きく変化しないことから、景観の変化は小さいものと予測する。

# 景観 予測結果

予測結果 地形改変並びに施設の存在

地点8 ハツ面山

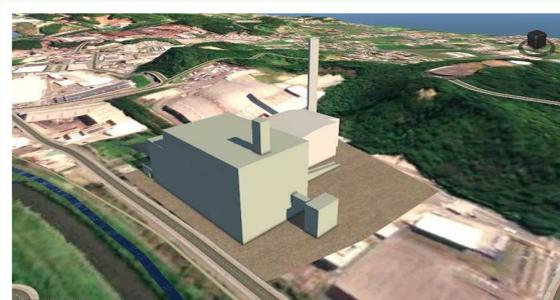
供用時



将来は、現施設の手前に計画施設の建屋及び煙突が出現するものの景観構成要素は大きく変化しないことから、**景観の変化は小さいものと予測する。**

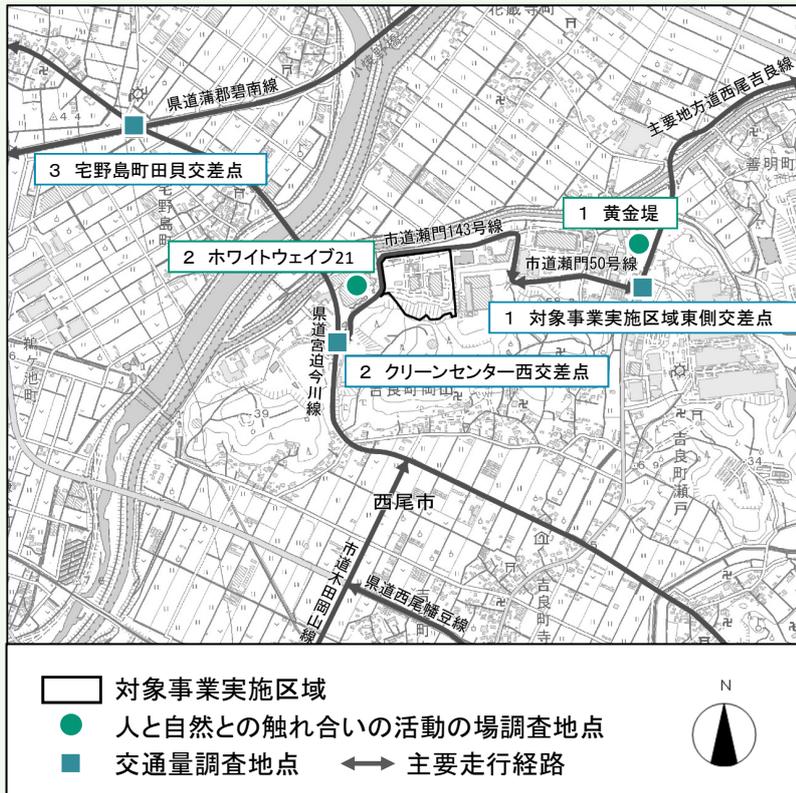
# 景観 環境保全措置

影響要因	環境保全措置
施設の存在	圧迫感を低減するため、可能な限り建築物を小さくする。
	建築物は、大きな壁面の分節化や彩度の落ち着いた色彩等に配慮する。
	対象事業実施区域の周縁部には可能な限り高木による植栽とする。
	建築物は、可能な限り敷地境界からの距離を設ける。



※計画施設の色彩や形状等については現時点でのイメージです。

# 人と自然との触れ合いの活動の場 調査結果



## 調査結果

### 黄金堤

- 駐車場での休憩利用がほとんどであり、お昼前後の利用が多い。



### ホワイトウェイブ21

- いずれの施設においても休日の方が利用者が多く、特にプールが増える傾向にある。
- 平日は13時台、休日は10時台の利用者数(合計)が最も多い。
- 利用者の交通手段は、大半が自動車である。

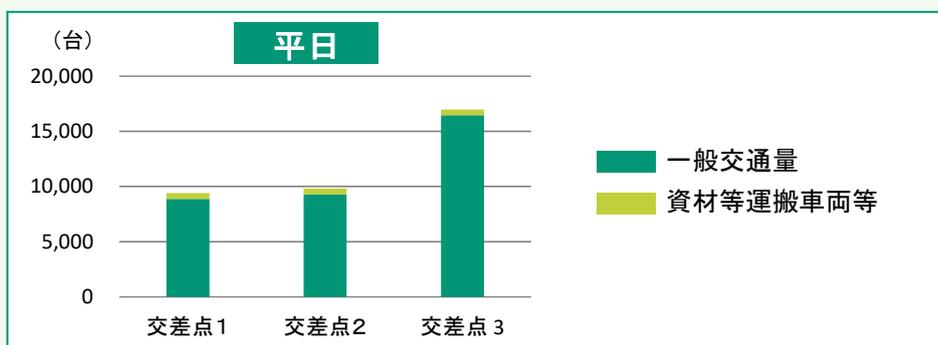


# 人と自然との触れ合いの活動の場 予測結果

工事の実施 資材等の搬入及び搬出：12時間

調査地点	項目	12時間交通量(台)		
		資材等運搬車両等	全体交通量	寄与割合 (%)
交差点1 対象事業実施区域東側交差点		514	9,388	5.5
交差点2 クリーンセンター西交差点		514	9,798	5.2
交差点3 宅野島町田貝交差点		514	16,954	3.0

注) 安全側評価の観点から、各予測地点において資材等運搬車両等がすべて走行するものと設定している。

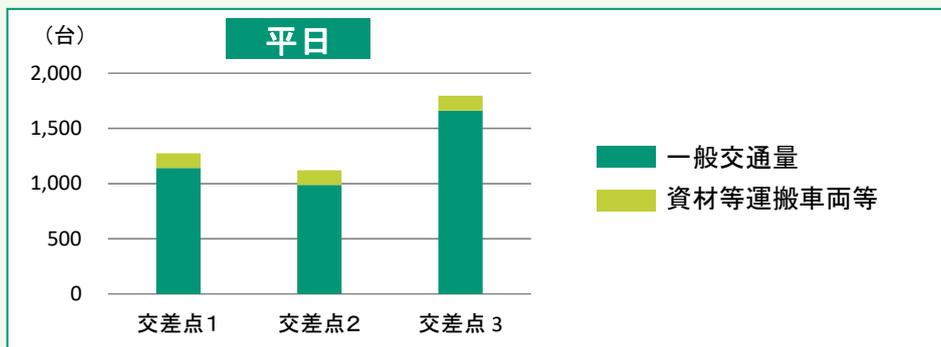


## 人と自然との触れ合いの活動の場 予測結果

工事の実施 資材等の搬入及び搬出：ピーク時間

調査地点	項目	ピーク時間交通量(台)		
		時間帯	全体交通量	寄与割合(%)
交差点1	対象事業実施区域東側交差点	7:00~8:00	1,274(134)	10.5
交差点2	クリーンセンター西交差点	7:00~8:00	1,120(134)	12.0
交差点3	宅野島町田貝交差点	7:00~8:00	1,794(134)	7.5

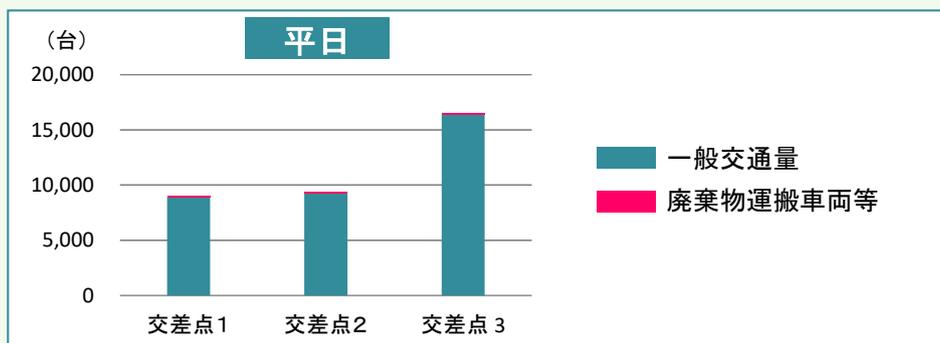
注) ( )は全体交通量のうち、資材等運搬車両等の台数を示す。



## 人と自然との触れ合いの活動の場 予測結果

施設の供用 廃棄物等の搬入及び搬出：12時間

調査地点	項目	12時間交通量(台)		
		廃棄物運搬車両等	全体交通量	寄与割合(%)
交差点1	対象事業実施区域東側交差点	92	8,966	1.0
交差点2	クリーンセンター西交差点	92	9,376	1.0
交差点3	宅野島町田貝交差点	92	16,532	0.6

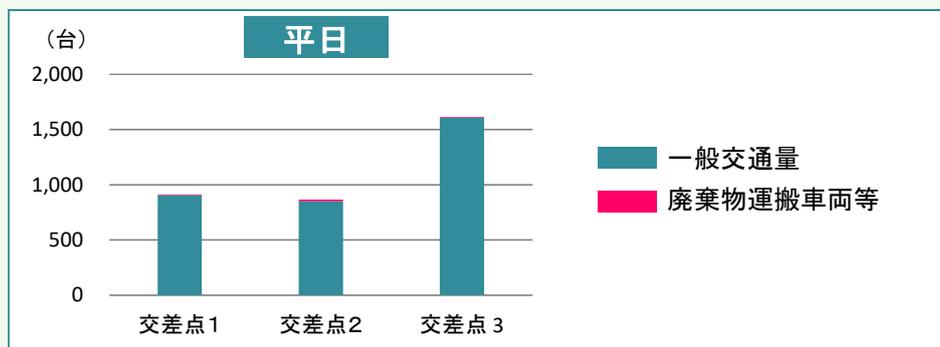


## 人と自然との触れ合いの活動の場 予測結果

施設の供用 廃棄物等の搬入及び搬出：ピーク時間

調査地点	項目	ピーク時間交通量(台)		
		時間帯	全体交通量	寄与割合(%)
交差点1 対象事業実施区域東側交差点		8:00~9:00	911(6)	0.7
交差点2 クリーンセンター西交差点		10:00~11:00	864(14)	1.6
交差点3 宅野島町田貝交差点		8:00~9:00	1,612(6)	0.4

注) ( )は全体交通量のうち、廃棄物運搬車両等の台数を示す。



## 人と自然との触れ合いの活動の場 環境保全措置

影響要因	主な環境保全措置
工事の実施	<p>工事関係の通勤者には、できる限り自動車の相乗りを指導し、通勤に使用する車両の走行台数を減らすよう努める。</p> <p>工事用車両(大型車)の運転者や工事関係者の通勤車両等(小型車)の運転者に対し、路上駐車禁止や交通ルールの順守、公園を利用する歩行者・自転車の横断及び通行に十分配慮するなど交通安全教育を徹底する。</p>
施設の供用	<p>朝・夕の交通量増加時には、廃棄物運搬車両等の台数を抑えるよう努める。</p> <p>廃棄物運搬車両等の運転者に対して、交通ルールの順守、ホワイトウェイブ21等を利用する歩行者・自転車の横断及び通行に十分配慮するなど交通安全教育を行う。</p>



# 廃棄物等 予測結果

## 工事の実施 掘削・盛土等の土工

### 残土の発生量

区分	数量	処理方法
発生土	26,200m <sup>3</sup>	発生土は、場内の埋戻し土として再利用を図り、残土は適正処分する。
場内再利用土	10,500m <sup>3</sup>	
残土	15,700m <sup>3</sup>	

### 解体工事及び建設工事に伴う副産物発生量及び処理方法

解体工事発生量	建設工事発生量	合計	処理方法
6,172.0t	484.4t	6,656.4t	可能な限り資源化を行う。 埋立処分となっている副産物についても、できる限り資源化を図れるよう努める。

# 廃棄物等 予測結果

## 施設の供用 ばい煙の排出、機械等の稼働

### 施設の供用に伴う廃棄物の発生量及び処理方法

区分	年間発生量(t/年)		処理方法
	ストー方式 焼却方式	シャフト炉式 ガス化溶融方式	
焼却灰	11,461	—	資源化 (土木資材、セメント原料等)
焼却飛灰	6,716	—	埋立処分
溶融飛灰	—	3,833	埋立処分
溶融スラグ	—	8,943	資源化(土木用資材等)
溶融メタル	—	986	資源化(非鉄精錬還元剤、製鉄原料、カウンターウェイト等)

# 廃棄物等 環境保全措置

影響要因	環境保全措置
工事の実施	可能な限り再利用可能な型枠を使用し、建設副産物の発生抑制に努める。
	再生砕石の使用等、施設建設において再生材の活用に努める。
施設の供用 (ストーカ式焼却方式)	焼却主灰は、外部での再資源化を行い、埋立処分量を低減する。
	焼却主灰、焼却飛灰の搬出にあたっては、適切な運搬車両を用い、灰が周囲へ飛散、流出することを防止する。
施設の供用 (シャフト炉式ガス化溶融方式)	溶融スラグは、土木用資材等として有効利用する。
	溶融メタルは、カウンターウェイトとしての利用や非鉄精錬還元剤及び製鉄原料として有効利用する。
	溶融飛灰の搬出にあたっては、適切な運搬車両を用い、灰が周囲へ飛散、流出することを防止する。

# 温室効果ガス等 予測結果

工事の実施 資材等運搬車両等の走行、建設機械の稼働

温室効果ガス排出量(資材等の搬入及び搬出)

単位:t-CO<sub>2</sub>/工事中

活動区分	車種	温室効果ガス排出量	
			合計
資材等運搬車両等の走行	大型車	1,037	1,603
	小型車	566	

温室効果ガス排出量(建設機械の稼働等)

単位:t-CO<sub>2</sub>/工事中

活動区分	温室効果ガス排出量
建設機械の稼働等	3,340



# 温室効果ガス等 予測結果

施設の供用 ばい煙の排出及び機械等の稼働

温室効果ガス排出量・削減量

単位:t-CO<sub>2</sub>/年

活動区分	二酸化炭素排出量		
	ストーカ式 焼却方式	シャフト炉式 ガス化溶融方式	流動床式 ガス化溶融方式
廃棄物の焼却 電力及び燃料等の消費	41,962	47,746	41,584
発電	11,354	13,805	14,855

温室効果ガス削減の程度

単位:t-CO<sub>2</sub>/年

区分	二酸化炭素排出量		
	ストーカ式 焼却方式	シャフト炉式 ガス化溶融方式	流動床式 ガス化溶融方式
温室効果ガスの 排出量-削減量	30,608	33,941	26,729
削減の程度(%)	27.1	28.9	35.7

# 温室効果ガス等 予測結果

施設の供用 廃棄物等の搬入及び搬出

温室効果ガス排出量(廃棄物等の搬入及び搬出)

単位:t-CO<sub>2</sub>/年

活動区分	車種	温室効果ガス排出量
廃棄物運搬車両等の走行	大型車	270
	小型車	256
合計		526



影響要因	主な環境保全措置
資材等の搬入及び搬出	資材等運搬車両等のエコドライブを徹底する。
	資材等運搬車両等のアイドリングストップを徹底する。
建設機械の稼働等	建設機械の整備、点検を徹底する。
ばい煙の排出及び機械等の稼働	廃棄物発電は、より高い発電効率となるよう努める。
	施設の設備機器及び照明や空調設備は省エネルギー型の採用に努める。
廃棄物等の搬入及び搬出	廃棄物運搬車両等のアイドリングストップを徹底する。
	廃棄物運搬車両等の整備、点検を徹底する。

## モニタリング計画

事後調査とは別に事業者が行う監視として、供用時について、大気汚染防止法等に基づく測定を実施します。

区分	モニタリングの手法等			
	調査方法	調査地点	調査期間	
大気質	酸素、一酸化炭素、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素、ばいじん	自動測定によるモニタリング	煙突	施設供用後に連続監視
	硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん、塩化水素	大気汚染防止法に基づく測定	煙突	施設供用後に2カ月に1回以上
	水銀	大気汚染防止法に基づく測定	煙突	施設供用後に4カ月に1回以上
	ダイオキシン類	ダイオキシン類対策特別措置法に基づく調査	煙突	施設供用後に1年に1回以上

# 評価手法について

## 評価手法



基準・目標との  
整合

環境基準・規制基準などの、環境保全のための目標や法令の規制値との整合が図られているか。

回避・低減

対象事業に係る環境影響が、できる限り回避又は低減されているか。

# 総合評価

公害防止に関する自主規制値を遵守するとともに、適切な環境保全措置を実施することにより、本事業による周辺環境への影響は小さい。

## 総合評価結果

基準・目標との  
整合

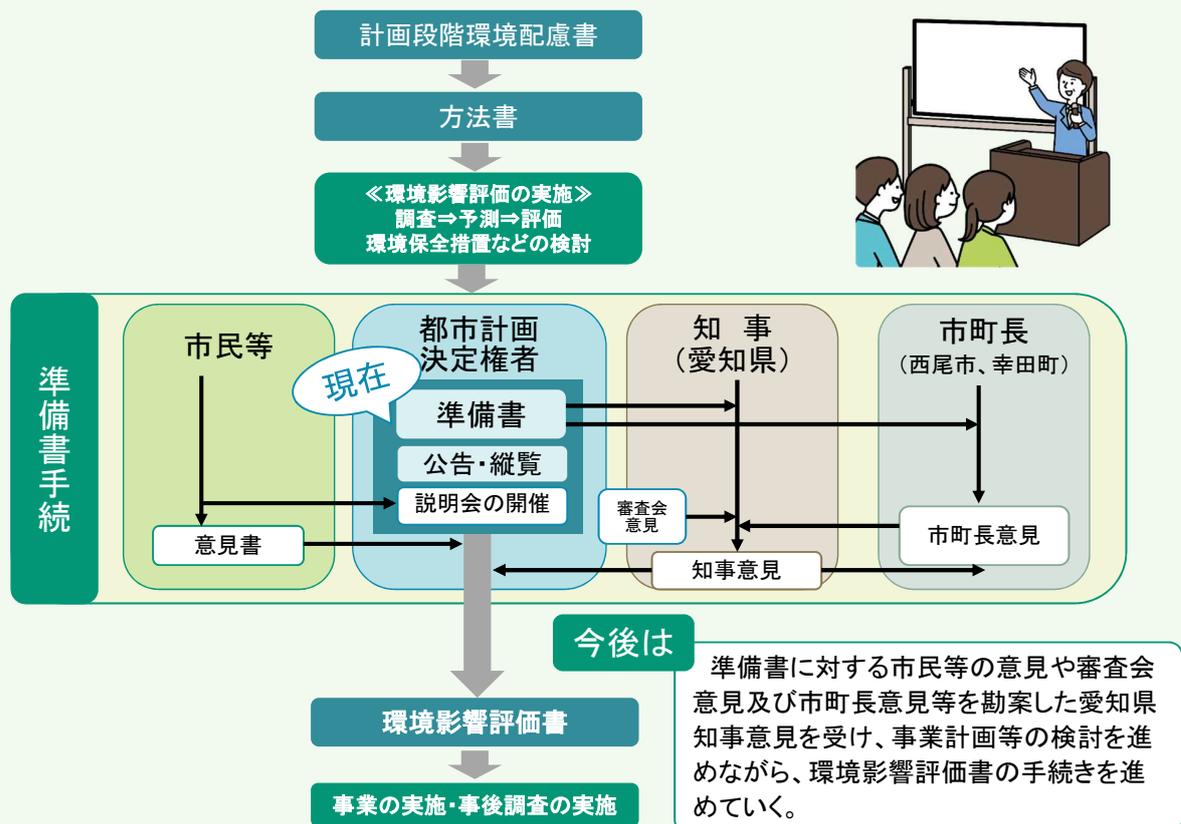
環境保全に関する基準等と調査及び予測の結果との間に整合が図られていると評価する。

回避・低減

実行可能な範囲内でできる限り回避・低減が図られており、環境保全についての配慮が適正になされていると評価する。

# 今後の手続

# 今後のスケジュール



## 準備書の縦覧について

縦覧場所	西尾市環境部環境業務課 (西尾市クリーンセンター) 西尾市都市整備部都市計画課 西尾市役所一色支所 西尾市役所吉良支所 西尾市役所幡豆支所 幸田町環境経済部環境課
縦覧期間	令和6年3月5日(火)から4月5日(金)まで 《土曜日、日曜日、祝日は除きます。》
縦覧時間	午前8時30分から午後5時15分まで

注)西尾市のウェブページからもご覧になれます。

## 意見書の提出について

提出先	西尾市 環境部 環境業務課 〒444-0531 愛知県西尾市吉良町岡山大岩山65番地
提出方法	提出先への持参または郵送 ※持参の場合には各縦覧場所でも提出できます。
提出期限	令和6年4月19日(金) ※郵送の場合には当日消印有効
意見書に必要な記載事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備書の名称</li> <li>・住所及び氏名(法人その他の団体は、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地)</li> <li>・準備書についての環境保全の見地からの意見(日本語で意見の理由も含めて記載)</li> </ul>